

## 平成21年度 第3回平田地域協議会 会議録 (概要)

1. 日 時／平成21年10月27日 (火) 午後1時30分～午後4時

2. 場 所／酒田市平田総合支所 302号室

3. 出席者／ (1) 1号委員 (団体推薦)

・ 奥山仁委員・阿曾智子委員・和根崎勘一委員・堀弥志男委員・  
長谷部耕次委員・佐藤力委員・加藤勝子委員・菅原律子委員 (副会長)  
・ ・ ・ 計 8名

(2) 2号委員 (識見を有する者)

阿部敬子委員・後藤保喜委員・富樫文雄委員 (会長) ・ ・ ・ ・ ・ 計 3名

(3) 3号委員 (公募)

佐藤達也委員・藤原幸雄委員 ・ ・ ・ ・ ・ 計 2名

(4) 酒田市

平田総合支所 佐藤富雄支所長・石川忠春地域振興課長・  
井上太地域振興主幹・中條幸弥市民福祉課長・  
佐藤政好建設産業課長・土田瑞穂地域振興課長補佐・  
地域振興課小松原毅地域振興主査兼地域振興係長・  
地域振興課高橋慎主任 ・ ・ ・ ・ ・ 計 8名

出席者合計21名

4. 欠席届／ (1) 1号委員 (団体推薦) 小林悟委員

(2) 3号委員 (公募) 富樫美雪委員

5. 次 第／ (1) 開会

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

(3) 平田総合支所 支所長あいさつ

(4) 会議録署名委員の選任

(5) 報告

- ①コミュニティ振興会の状況について
- ②平田中山間活性化事業（案）について
- ③平田さしこ産業化事業（案）について

(6) 協議

- ①平成22年度 地域づくり予算について
- ②地域課題について

(7) その他

(8) 閉会

## 6. 会議録／(1) 開会

▶石川地域振興課長

(2) 平田地域協議会 会長あいさつ

▶富樫会長

本日はご出席いただきまして、ありがとうございます。

コミュニティ振興会の各種行事や農林水産まつりといったイベントなど、様々な形で市民参加の姿が見えてきた。平田地域においても産業まつりが開催されるが、より多くの皆様からご参加いただきたい。

国における政治の姿が、自民党から民主党に変わった。先日、国土交通省、農林水産省、文部科学省などを訪問したが、各省の職員とも今後どうなるのか見えてこないとのことであった。しかし、国民の声が大きく行政に反映されるのが本来の姿ではなかろうか、とのことでもあった。

酒田市においても、市民サイドの行政、市民サイドの活動や行動が望まれている現実ではないかと思っている。協働のまちづくりに向け、行動する地域協議会として、意見交換、問題提起をしていかなければならないと思っている。

10月に平田地域で開催された、移動教育委員会を傍聴した。何名かの委員も出席されていたが、教育長より、各界各層からの参加と意見に

対して御礼をいただいている。

本日も、皆様から様々なご意見やご質問をいただき、活発なご協議をお願いしたい。

### (3) 平田総合支所 支所長あいさつ

#### ▶佐藤支所長

皆さんこんにちは。

秋の農作業が一段落したとはいえ、お忙しいところ第3回目となる平田地域協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また普段から、地域の振興、住民福祉の向上にご尽力いただいていることに対し、厚く感謝申し上げます。

コミュニティ振興会に移行してから、7カ月になろうとしている。毎月定例のコミュニティ振興会連絡協議会を開催しながら、情報交換、課題の整理・検討を行っている。9月には、コミュニティ振興会主催としては初めての、敬老会を開催いただいた。さらには広報の発行など、地域のアイデアを出しながら計画された事業を実施いただいているほか、地域振興に向け意欲的に新たな事業にも取り組んでいただき、感謝に耐えない。

10月8日、台風18号が日本列島を直撃し、大きな被害をもたらした。東北地方に向かって北上するとの情報により、市でも警戒態勢を敷いたが、幸いにも太平洋に抜け大事にはいतरなかった。

10月18日、市の巡回駅伝大会において、平田チームが見事優勝に輝いた。一昨年の総合優勝から、2年ぶりの快挙となる。選手や関係者に、感謝と大きな拍手を送りたい。

新型インフルエンザについては、飛鳥中学校で発症している。今日現在1年生12人が発症し、10月23日から29日まで学年閉鎖となっている。2年生も11人、3年生も4人が発症し、2年、3年とも10月26日から11月1日まで学年閉鎖中であり、現在は休校状態となっている。広報等を通し、市民に注意を喚起するほか、児童・生徒にも学校を通して注意を呼びかけている。委員の皆様からも、ご注意いただきくようお願いしたい。

本日は中山間地域の活性化への取り組み、平成22年度の地域づくり予算等の案件について、ご意見を賜りたい。慎重審議をお願いしたい。

### (4) 会議録署名委員の選任

▶富樫会長

名簿登載順ということで、和根崎勘一委員を指名いたします。

(5) 報告

①コミュニティ振興会の状況について

▶井上主幹より説明（資料に沿って説明）

②平田中山間活性化事業（案）について

③平田さしこ産業化事業（案）について

▶石川地域振興課長（概要について説明）

▶小松原地域振興主査（事業内容について説明）

▶後藤委員

説明にあった五つの団体とはどこか。

▶石川地域振興課長

胎蔵ロマン会、楯山わがまま苦楽部、中野俣を元気にする会、ひらた里山の会、やまもと農場の五つ団体でと意見交換、情報交換を行っている。

▶長谷部委員

人件費が約200万円、人件費以外で200万円、計400万円程度の事業費とのことであるが、地域に対する経済効果はあるのか。

雇用についてはハローワークを通して募集することのだが、中山間の事情や状況を理解している方を採用することが可能か。

▶石川地域振興課長

この事業は、国が雇用創出に向け創設した「ふるさと雇用再生特別基金事業」を活用し、地域における雇用の場を確保しながら、中山間の活性化、さしこの産業化も図っていきたいという組み立てである。

募集については、補助金交付要綱の中で公共職業安定所の利用が定められている。想定ではあるが、募集要項のなかに「中山間や平田地域に詳しい方」という条件を加えることも考えられる。

事業内容は、マップ製作やホームページを立ち上げての地域資源について情報発信だが、特産品の開発・販売や交流人口の増加といった効果が生じ、さらにそこから新たな雇用が生まれればと考えている。そこまで一挙にというのは難しいので、現在は、平田地域で地域づくりに向け活動されている団体同士が、協力して一緒に事業を進めていけないか検討している段階である。

▶長谷部委員

事業計画は2年間とのことだが、こうした短期間で効果が現れるのか疑問である。外に向けPRを行い誘客を図り、観光開発、産品開発を行って経済効果が現れるまで、こんな短期間では無理だと思う。厚生労働省の事業を消化することのみしか考えていないのではないか。

この事業を本当に中山間地域の活性化や過疎の解消に向けるのであれば、このような簡単な計画ではなく、継続性のある中身の濃い計画が必要ではないか。この事業が変化する要素はあるのか。

▶石川地域振興課長

新規産業の創出による中山間の活性化という目標に対しては、この事業を2カ年実施したから達成できるものではない。この事業では、事業終了後も事業を受託した団体において、引き続き雇用が継続することが望ましいとされている。

各団体に伺ってみると、2カ年であってもまず取り組んでみて、そこから次につながるものを見つけていこうとのことであった。3年目以降については、その時の状況も見ながら、受託した団体に新たな負担をかけることはせず、五つの団体それぞれの活動を大切にしつつ連携も図り、新たな取り組みを行っていけないかと考えている。今後さらに、各団体から意見を伺っていきたい。

▶長谷部委員

この事業を否定しているのではない。地域協議会に提案されたわけであるので、継続性のある中身の濃い、経済効果の現れる事業となるよう、地域協議会としても議論を行うべき。

▶石川地域振興課長

地域協議会として、後押しするような協議を行うべきとの発言と受け止めている。平成23年度で補助事業が終了することもあり、以降の支援については、国や県の制度活用も含め検討していかなければならないと考えている。

▶長谷部委員

補助金を投入した効果が現れるよう、地域協議会としても議論し、サポーターになっていければと考えている。

▶佐藤支所長

今回の提案は、「中山間地域の活性化をどう図っていくか」というテーマに対し、財政的にも有利である雇用創出に向けた厚生労働省の補助制度を活用し、実施しようとするものである。この事業が雇用の創出を目的とすることを認識しながら、中山間地域の活性化も目指していく

ことをご理解いただきたい。

平成21年度をもって過疎法の期限が切れるわけだが、その継続について、市としても重要事業にあげながら要望活動を展開している。報道によれば、しばらくは現在の過疎法を継続しながら、新たな展開が可能となる施策を盛り込んだ、新過疎法の制定について検討していくとのことであった。

こうした動きも睨みながら、新たな支援制度ともからめ、中山間地域の活性化に向けがんばっていききたい。委員の皆様からもご意見やアイデアをお聞かせいただき、地域にとって有効な事業としていきたい。

▶堀委員

今回はあくまで報告とのことなので、この事業に対し意見を発すべきものではないと考える。しかし地域協議会の在り方を考えたとき、協議として中身の議論をしてもいい議題と考える。今後、報告にするのか協議として議論していくのか、整理が必要である。

▶菅原副会長

中山間地域の活性化については、これまで地域協議会の中でも何度も取り上げられてきた課題である。今回は国の補助事業について示されたわけだが、平田における中山間地域の活性化を、力強く進められるような事業を展開していただきたい。

しかし、2年間という短期間で商品開発など結果を出していくことは大変なことと考える。五つの団体がまとまって事業に参画しようとしているのか、状況を伺いたい。

▶石川地域振興課長

現在は、事業への参画について五つの団体と協議しているところである。各団体の活動も大切にしながら、連携して事業を進めていくことが可能か検討しているところであり、報告事項か協議事項かについては、現段階では経過についての報告と受け止めていただきたい。

▶佐藤力委員

中山間地域の活性化は、平田町時代からの大きな課題である。この五つの団体が、地元でがんばっているということをご承知のとおりであるが、市としては事前協議を行いながら、やる気のある団体と一緒にこの事業を進めていきたいということだととらえている。

「めんたま畑」にしても様々な経緯はあったが、やる気のある者に対する行政の支援もあって、今日の形となっている。今後3年後、5年後についての議論も当然必要だが、「めんたま畑」を良い例に、この事業

を呼び水として、各団体からよりいっそうがんばってもらいたい。中山間地域、平田の活性化に向け、我々も協力していきたい。

▶藤原委員

平田さしこの会についてであるが、会員は高齢化が進んでおり、会としては伝統ある平田さしこについて、趣味をベースにしながら地域に広めていきたいとのことであった。産業化に向けた支援事業は、望んでいないという声も多く聞いている。

事業については拙速に進めることなく、団体の主体性を尊重すべく、十分に話し合っていたきたい。活動している方の思いをしっかりと汲み取り、行政主導とならないようお願いしたい。

▶石川地域振興課長

平田さしこの会に対し、産業化についての話をしているが、押し付けて事業を行う考えはない。会の総意として、「これまで行ってきた文化の伝承に加え、販売にも取り組んでみよう」となったときに、支援していくことが基本だと考える。現在も事業について話し合っているところであるが、後々会員の皆さんから、「やりたくなかったのに押し付けられた」ということにならないよう、十分に協議を重ねていきたい。

▶富樫会長

本件については事務局から委員に対し、各種の情報を提供してもらいたい。平田さしこの会については、整理がついていない部分もあるので、ベストな方向に進むよう、平田さしこの会と市とで話し合っていたきたい。また委員の皆様からは、今後ご意見、ご提案をいただきたい。

(6) 協議

①平成22年度 地域づくり予算について

▶石川地域振興課長より説明（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

今回示された予算について、組織に持ち帰って説明し、そこで出た意見を市に報告したいが、それはいつどこでできるのか。予算についての意見を反映させるための協議はいつできるのか。仕組みはどうなっているのか。

▶石川地域振興課長

予算要求の時期が10月半ばということで、第2回目の地域協議会において、平成22年度に向けたご意見をいただく場を設定した。その時

は時間的な制約もあったせいか、新たな事業への取り組みなどについて意見が出なかったため、今回の要求内容となっている。

▶富樫会長

組織からの意見が出た場合、市全体の予算編成のスケジュールの中で、意見を反映させることは可能なのか。

▶石川地域振興課長

前回の地域協議会において、平成22年度に向けたご意見をいただく場を設定している。日程的に、今後新たな事業を盛り込むということは難しい。

▶長谷部委員

「地域協議会とは何か」いう部分に入っていくと、こうしたことに言及せざるを得ない。これまで4年間の、地域協議会の経緯について意見を言わせてもらえれば、市の報告を承認してもらえばいいという形の会議が多かったのではないかと思う。そうではなくして、協議を行って、皆さんの意見を尊重した形をとっていく会であるべき。

一例をあげると、この地域の農業を考えたとき「農業体験・農業後継者育成事業」が予算0でいいのか。もっと議論すべきではなかったか。また「都市・農村農業体験交流推進事業」は、いかなる効果を地域にもたらしているか。

▶佐藤建設産業課長

「都市・農村農業体験交流推進事業」で実施した農業体験には、体験田植えが17人、体験稲刈りで29人の参加があった。参加者のほとんどが、県外からの参加であった。田園調布学園のファームステイによる経済効果としては、バス、レンタカー等の交通機関、宿泊や体験活動、農産物の販売などを合せ600万円程度と考えている。

▶佐藤支所長

「農業体験・農業後継者育成事業」については、「保育園児から収穫の喜びを知ってもらう」「鳥海南麓地区の実証圃の有効活用」といことで合併前から実施してきたが、一定の目的が達せられたということで終結をみたところである。農業後継者の育成については、農政課で実施している「スーパー農業経営塾」など、市全体で取り組んでいる。

地域において強力に進めてもらいたいという意見や要望など、地域協議会で協議された内容については、施策に反映してもらうべく、年度末に会長・副会長が市長に報告を行っている。今後も、ご意見やアイデアをいただきたい。

▶阿曾委員

「地域振興まつり事業」に、「経ヶ蔵ツアー」を入れられないか。参加者が広範囲になり、東陽コミュニティ振興会で実施するには大変な部分もある。「地域振興まつり事業」の中の「田沢川ダムまつり」について、今後収支の報告はあるのか。

▶井上主幹

「経ヶ蔵ツアー」は、これまでも実行委員会形式で実施してきた。平成20年度までは、教育振興室の職員が事務を行ってきたが、今年度から事務局を地元をお願いしている。事業の中身などについては、地域振興課にご相談いただきたい。

▶佐藤建設産業課長

「田沢川ダムまつり」が10月4日に行ったこともあり、現在精査しているところである。決算については後ほど報告したい。

▶和根崎委員

「花いっぱい運動推進事業」について、「地区内で花を咲かせてもらいたい」とのことで、種子を受け取ったときには、写真などの報告は必要ないとのことであった。榑橋地区では小学生に種を配り、自分の庭先に花を咲かせた。

その後、建設産業課から電話があって、「榑橋地区内の公共的な場所に花が咲いていないが」とのことであった。「公共的な場所に」という説明が最初から欲しかった。来年度から改善してもらいたい。

▶奥山委員

「田沢川ダムまつり」について、1,200人と多くの入場者があって喜んでいるが、稲刈りの時期と重なるため、地元では開催時期をずらせないかという要望が強い。

▶加藤委員

農村環境改善センターの使用料については、冷・暖房料を含め、使用時間の区分が午前、午後となっている。使用時間が午前と午後にまたがると、使った時間が少なくても丸1日分の料金となる。生涯学習活動としてお年寄りが使う場合もあるので、使用時間の区分について考えられないか。

▶阿部委員

「首都圏ふるさと平田会事業」について、懇親を深めるだけでなく、ふるさとのため組織の力を活用させていただくべき。

▶佐藤達也委員

地域づくり予算について、見直す時期に入っているのではないかと。地域協議会として、事業効果などについて集中して議論する場を設けるのも、一つの方法ではないかと。

▶藤原委員

「都市・農村農業体験交流推進事業」に、「農業体験・農業後継者育成事業」と「体験農業事業」を一緒にしているが、事業の内容や性格上、別々にしてはいけないのか。その方が分かりやすいのではないかと。

▶佐藤建設産業課長

「花いっぱい運動推進事業」については、今年度から種子で配布するようになったこともあり、説明時に不手際があった。来年度は、こうしたことがないように注意したい。

「田沢川ダムまつり」の開催時期については、実行委員会で決定している。来年度の開催時期については、開催時期について実行委員会で相談していただければ、変更は可能である。

農村環境改善センターについては、市にある三つの改善センターの使用料を統一したため、現在の取り扱いとなった。使用時間が午前と午後にあたった場合、冷・暖房料が丸1日分とならないようにできるのか、条例等を確認する。

▶石川地域振興課長

「首都圏ふるさと平田会」については、会員が7・800人いる中で、総会への出席者が150人程度であるが、楽しみにされている会員も多い。会の在り方について、情報交換を行いたい。

地域づくり予算の事業効果については、議論する場が必要と感じている。検討していきたい。

▶富樫会長

地域づくり予算について組織に持ち帰り、再度地域協議会を開催することについて、賛成の方は挙手をお願いします。(1名挙手)

地域づくり予算について賛成の方、挙手をお願いします。(11名挙手)

賛成多数と認めます。

第3回地域協議会を終了します。